

退院時関連エラー

■ 退院時関連エラーとは？



退院や転院の際、退院処方薬の渡し忘れや、誤って他患者さんの処方薬や書類などを渡してしまうことが度々発生しています。

医療者側の不注意にもかかわらず、患者さんに、退院後に再度来院していただいたり、お薬がないために、自宅近くの病院を受診し処方してもらったりと、患者さんに負担がかかっています。また、誤って他患者さんの処方薬や書類など渡した場合、個人情報漏れるなどの問題も発生します。

当院では、2017年より、これらのエラーに対し発生件数や要因を調べ、対策に取り組んでいます。

■ 主な取り組み



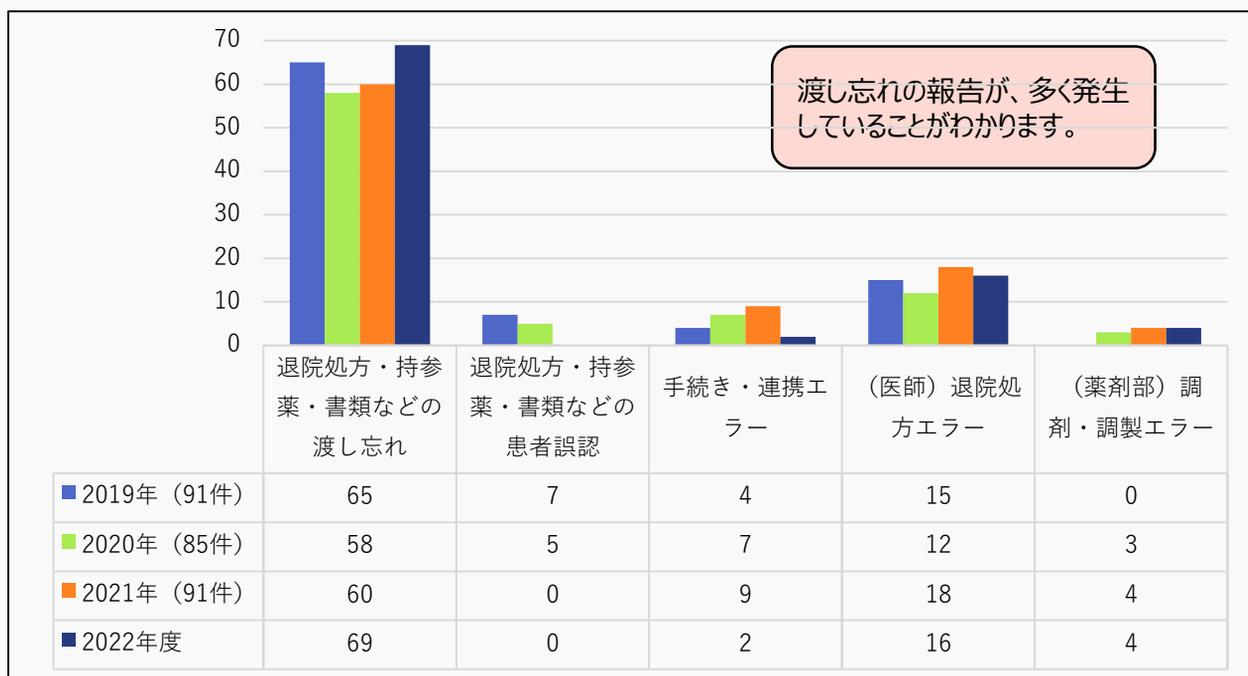
- ◆ 2017年8月
 - ・ 退院タスクフォース立ち上げ
 - ※タスクフォース：特定の課題に取り組むため、一時的に設置されたチームのこと
 - ・ 各病棟で作成された既存の退院チェックリストの検証
 - ・ 院内共通の退院チェックリストの作成
- ◆ 2017年12月～
 - ・ 先行病棟5病棟で院内共通退院チェックリストの試運用を開始
- ◆ 2018年6月～
 - ・ 全病棟院内共通退院チェックリストを導入
- ◆ 2020年12月
 - ・ 看護部安全管理委員会と協同し、院内共通退院チェックリストの改訂
- ◆ 2023年3月
 - ・ 看護部安全管理委員会と協同し、院内共通退院チェックリストの改訂

■ 院内共通退院チェックリストを作成する際に工夫したこと

エラー発生の原因を調べてみると、患者さんが退院するまでの経過の中で、誰が・いつ・どのタイミングで退院準備を行い、最終確認を行うのか、最終責任者は誰なのかが曖昧であることがわかりました。

また、準備者は、最終手渡し者が確認をしてくれるだろう、最終手渡し者は、準備者が準備してくれているだろうという、「思い込み」や「依存心」があるのではないかと考えています。そのため、院内共通退院チェックリストに、準備者と最終手渡し者（最終責任者）の確認欄を作り、それぞれが独立して確認するようにしました。

■ 2019年～2022年の退院時関連エラー；エラー内容別報告件数



■ 今後の取り組み

2017年より、退院時関連エラーの防止対策に取り組んでいますが、インシデントの発生件数に変化がありません。その主な原因は、「〇〇をしてくれているだろう」という、**思い込み**や人に頼ったり、この人なら大丈夫という**依存心**があったため、院内共通退院チェックリストを作成する際に、準備者と最終手渡し者（最終責任者）の確認欄を作り、それぞれが独立して確認するようにし、思い込み・依存心によるエラーは少しずつですが減少してきています。

今後も、継続してデータの収集と整理を行い、原因分析と対策の検討と実施に取り組んでいきます。